

令和6年度 実践研究事業
(そにとキャンプ・旅立ちのキャンプ)

- [主 催] 国立曽爾青少年自然の家
- [後 援] 奈良県教育委員会、名張市教育委員会、宇陀市教育委員会
- [期 日] 令和6年12月14日(土)～12月15日(日)
- [対 象 者] 発達に特性がある児童生徒や不登校など集団(学校)生活に困り感のある小学校4年生～中学校1年生の児童生徒とその保護者
- [参加/募集] 児童12名／12名、保護者14名
- [講 師] 竹端寛氏(兵庫県立大学教授)、野田満由美氏(NPO法人み・らいず実践研究所)
- [担 当] 三木智拡(主任企画指導専門職)・坂本純一・森岡亮平(企画指導専門職)大向満(主幹兼事業推進係長)・百田恵美(看護師)



1 趣 旨

子どもプログラムでは、夏のキャンプで自己選択・決定を促すプログラムを実施したが、今回は小グループでの選択・決定をプログラムの柱とした。決定に際し、合意形成のために話し合うプロセスが生じるが、ボランティアの介入を最小限にし、これまでのキャンプで醸成された「なかま」感覚をベースに、子どもたちの自主性と必然性を大切に扱った。

保護者プログラムについては、日頃の親としての「もやもや」について対話中心の講義(竹端氏)、就労までの見通し(野田氏)、そにとキャンプOBとの対話などの研修と同時に、保護者間の懇親・親睦の時間を重視したプログラム構成とした。

2 ねらい

- ① 話し合い、自分たちだけのキャンプを創る。
- ② 自分と周囲の変化・成長に注目し見出す。
- ③ 育まれた「なかま」としての感覚を一層広げ、深める。
- ④ 保護者に様々な視点を提示し、自己理解と親睦を深め、将来への展望をもってもらおう。

3 プログラム展開

【子どもプログラム】

12/14 (土)	9:45 受付	10:00 始まりの会	10:15 班の時間	11:00 選択プログラム/雪遊び・館内活動・テント張り・昼食	17:00 そにとアドバンチャー	18:00 夕食	19:00 振り返り	19:30 入浴	21:00 就寝
12/15 (日)	7:00 起床	8:00 朝食	9:00 選択野外炊事・昼食	13:00 ふりかえり	14:00 おわりの会	14:30 解散			

【保護者プログラム】

12/14 (土)	9:45 受付	10:00 始まりの会	10:20 おしゃべり 昼食	13:00 講義 竹端氏「ケアシキアされ生きていく」	16:00 講義 野田氏「子どもの未来に向けて」	18:30 夕食 入浴	19:30 懇親会 入浴	22:00 就寝
12/15 (日)	7:00 起床	8:15 朝食	9:15 講義 そにとキャンプOBとの対話	10:30 班活動(選択プログラム)	11:40 子どもたちからの昼食	13:20 ボランティアとの懇談会	14:00 おわりの会	14:30 解散

4 活動の様子



5 まとめ（子ども及び保護者のアンケート）

【保護者】

- ・子ども同士だから乗り越えられる経験ができたことは大きい。仲間がいるからチャレンジできることもあって、参加してとても良かった。
- ・同じような悩みをもった方と話ができて、共感できてよかった。

【子供】

- ・将来の夢はそにとスタッフになることです。それは、(ボランティアが)心がとても優しくつきあってくれたからです。
- ・雪遊びもできたし、新たなことにも挑戦できた。
- ・とてもびのびとできてよかった。
- ・自分の意見を伝えられた。